

手書きによる認知症初期の簡易検査研究に協力

～ 筆跡を経時的に記録できる『電子下敷』を活用した、時計描画の筆記検査 ～

コクヨ株式会社（本社：大阪市／社長執行役員：黒田 英邦、以下コクヨ）は、学校法人新潟総合学園新潟医療福祉大学（本部：新潟市／学長：山本 正治、以下新潟医療福祉大学）における認知症初期の簡易検査研究に、株式会社ワコム（本社：埼玉県加須市／代表取締役社長兼CEO：井出 信孝、以下ワコム）とともに、紙帳票に手書きした文字をデータ化できる入力支援ツール『電子下敷』を活用した筆記データ分析で協力しています。

国内の認知症患者は65歳以上で462万人といわれ、軽度認知障害（MCI）の約400万人を加えると高齢者の4人に1人まで増加してきており（※1）、早期発見が簡易にできる仕組みが求められています。

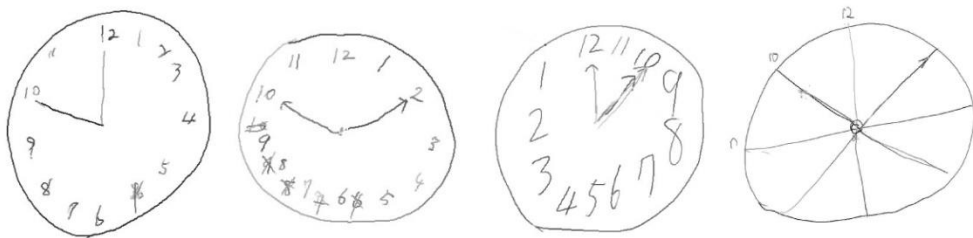
現在用いられている検査手法のひとつ「時計描画試験／CDT（※2）」で、軽度認知障害の場合に、時計の描画はできているものの書き順に変化が生じたり、書き迷って手が止まる場所が出てくるとの研究視点があります（児玉直樹／新潟医療福祉大学教授）。

コクヨはワコムと共に、筆跡を経時的に記録できる『電子下敷』と検査用ソフトウェアを用いて、描画の経緯をデータとして蓄積・分析する仕組みを新たに構築し、新潟医療福祉大学の研究に協力しています。この方法では、被験者は紙に筆記するという慣れ親しんだ行動で検査に臨むことができ、検査者は判断に必要な情報を従来の検査結果に比べ、より多く手軽に得られることが期待できます。コクヨは今後もこの研究をサポートし、軽度認知障害の早期発見に貢献したいと考えております。

※1 出典「都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応」（H25.5報告）

※2 Clock Drawing Test：時計の絵および指定された時刻に針を配置する描画検査。運転免許証更新時の認知機能検査にも採用されている。

時計描画試験における被験者の回答例（10時10分の時計を描く）



電子下敷

デジタルタテ字



筆記イメージ

本商品は以下イベントにてご覧頂くことができます。

「Connected Ink 2018（コネクティド・インク）」
 2018年11月30日（金）10:00-17:00（受付 9:30-）
 ANAインターコンチネンタルホテル東京（東京都港区赤坂1丁目12-33）
<http://connectedink.wacom.com/ja/>